

箸墓古墳（はしはかこふん）

倭迹迹日百襲姫命（やまとととひももそひめのみこと）の墓（はか）と言われています。前方後円墳（ぜんぼうこうえんふん）の中では最（もっと）も古いもののひとつです。また、邪馬台国（やまたいこく）の女王である卑弥呼（ひみこ）の墓ではないかとも言われています。約1800年前に作られ、長さは約280メートル、はば155メートル、高さ22メートルもあります。『日本書紀（にほんしょき）』には、あまりにも巨大（きょだい）な古墳（こふん）でとても人間の力だけでつくるのは不可能（ふかのう）なので夜は神が造った（つくった）という説話（せつわ）や、遠くから石を運んで古墳をつくったようすが書かれています。

古墳正面



夕暮（ぐ）れと箸墓古墳



織田小学校から見える箸墓古墳



箸墓古墳

